

広報

人と自然がひびきあう県北の都 玉名

たまな 9

2016
NO.244

月号

漱石と、 玉名

●お知らせ

熊本地震被災者支援情報
住宅・農地の復旧工事費を
補助しています

確認じゃ！

2つの給付金

バス路線が変更されます





- 02 夏目漱石と、玉名
- 05 たまなの話題
- 04 平成28年熊本地震
玉名市独自補助事業／文化財
復元・復興募金／住宅耐震化
- 09 確認じゃ、2つの給付金。
- 12 自治基本条例 第14回
- 13 キラリ輝く人たち⑭／平成28年度秋の全国交通安全運動
- 14 はつらつ通信／認知症支援事業
健康福祉事業 「後期高齢者健康診査受診券」郵送／敬老会開催／「浴場」を無料開放／玉名市水中ウォークサポーター養成講座／ファミリーサポーター養成講座
- 18 タマナカレンダー
- 20 くらしの情報局
●イベント&講座 あらたま魅力体感婚活／「少年の主張」県大会／湯けむり朝市／きらきら星まつり／廃油石けん作り教室／東部環境センターからのお知らせ／クリーンパークファイブからのお知らせ／子ども若者とメディア、を考える会／伊倉歴史講座／岱明町支館対抗体育祭／市民テニス大会／たからさがし。企画展「しあ和せ繋ぐ展」／歌声喫茶 in 高瀬蔵／ファミリーパタンク大会／玉名市民グラウンドゴルフ交歓大会
- 22 ●募集 玉名市営住宅入居者募集／玉名市人材育成基金助成事業／農業スタッフ講習／「玉名市差別をなくし人権を守る審議会」委員公募／人権メッセージ「あなたのひとこと」募集／「ふるさと寄附金」のお礼を募集します
- 24 ●福祉&健康 たまな元気会(玉名地区) 男性料理教室／玉名中央老人クラブ文化作品展／児童扶養手当の加算額が変わります／国民年金加入者の皆さんへ／マンモグラフィによる「日曜乳がん検診」／手話通訳者を利用できます／母子家庭等自立支援教育訓練給付金／パソコンで作るマグネット講座
- 26 ●相談 全国一斉「高齢者・障害者の人権あしん相談」強化週間／成年後見無料相談会／臨床心理士相談会／無料法律相談会／アイヌの方々からの様々なご相談をお受けします／生活の不安や心配をご相談ください
- 27 ●お知らせ 農業者年金受給予定者説明会／排水設備工事責任技術者資格認定共通試験／九看大附属図書館一般利用のご案内／新婚世帯の新居の費用を補助します／使用済み農薬容器を回収します／にっぽん縦断こころ旅／学校ボランティアに参加しませんか／快適で住みよい生活のため生活排水はきちんと処理しましょう／入札結果
- 32 教育委員会からのお知らせ
- 34 子育て保健コーナー
- 36 子育てひろば
- 38 玉名市民文化祭作品募集
- 39 玉名市では、「音楽の都玉名」を目指しています
- 40 10月1日(土)からバス路線が変更されます
- 42 たまな未来カフェを開催しました
- 43 玉名を舞台とする「おぼあちゃんとネコの物語」／休日在宅医
- 44 タマにゃん ゆるキャラグランプリ 2016

夏目漱石と、玉名

山路を登り、峠を越えてたどり着いた風景

英国留学中、友人への手紙に「小天行きなど思い出す」と記すほど、漱石は小天温泉への旅を気に入っていた。

留学前の4年3カ月を熊本で過ごした漱石の、玉名との縁。



今年と来年は漱石記念年

今年2016年は漱石没後百年、来熊百二十年の記念年。そして来年2017年は、漱石生誕百五十年であり、小説「草枕」を生んだ玉名(小天温泉)への旅から百二十年の、記念年となる。

小天温泉を訪れた明治30年の漱石は、まだ30歳の青年。この年、父を亡くし、妻が流産しています。山路を歩きながら様々な思いが去来する旅だったことでしょう。

「回廊の様な所をしきりに引き廻されて、仕舞に六畳程の小さな座敷に入れられた」（「草枕」第3章）



漱石が滞在した「前田家別邸」

母屋は残っていないが、作中に出てくる半地下式の浴室、6畳の離れが保存されている。



きつかけは夫婦げんか？ 草枕を生んだ小天への旅

今から120年前の明治29年4月、熊本第五高等学校（五高）の講師となった漱石は6月に結婚しました。新天地熊本、また新婚での初めての正月となった明治30年正月に、漱石夫妻は大げんかをしたといわれています。きつかけは、新妻が苦心して作ったおせち料理。下宿していた漱石の同僚や五

高の学生が食べ尽くしてしまい、年始客が来た時には、振る舞うための料理がなくなつてしまつていたのです。

これに懲りた漱石は、次の正月は年始客から、あるいは妻からの逃避を企てたのか、明治30年の年末から年明けにかけて同僚の山川信次郎と小天温泉への旅に出ました。山路を登り茶屋で一休みしながらたどり着いた漱石は、この地の名士、前田案山子の別邸（現在の前田家別邸）に宿泊しました。この旅での体験が、旅で出会った前田案山子、その娘の卓が登場人物のモデルとなる小説「草枕」を生み出すことになりました。

石貫村の徳永右馬七は漱石の同僚英語教師だった

熊本で教師生活を送つていた4年3カ月の間に交流した人物には、玉名の人も含まれています。石貫の徳永家には、明治32年5月27日付けの夏目漱石から徳永右馬七へ宛てた

手紙が伝わっています。

徳永右馬七は、明治28年4月から第五高等学校（五高）で英語を教えていました。明治29年2月からは、熊本県尋常中学校済々黌の教師となります。

明治29年4月、五高に赴任した漱石は、五高に勤務しながら済々黌の講師もしていたため、ここで同僚となります。

その後、右馬七は明治32年5月から佐賀県の第3中学校に勤めることになりました。

この手紙は、佐賀に移つてもない右馬七が、熊本の漱石に「JET」という英単語の意味について尋ねた手紙に対する漱石の返事です。かつての同僚にも親切に返事を書いた漱石の真面目さがうかがえます。

徳永家は代々石貫村の庄屋を務めた家柄でした。



横島で少年期を過ごした 人物が漱石を小説家の道へ

明治36年、英国留学から帰国した漱石は、東京帝国大学の講師になり、明治38年、38歳の時に「吾輩は猫である」を発表。その後「倫敦塔」「坊ちゃん」と次々に作品を発表し、作家としての地位を確かなものにしていきます。

明治40年、漱石が40歳の時に、東京帝国大学を辞め新聞社の小説家となる決意をさせたのが、当時の朝日新聞主筆だったジャーナリスト池辺三山（本名吉太郎）という人物。池辺三山は、明治初頭の横島で私塾を開いていた元細川藩士池辺吉十郎の長男で、生まれは熊本城下ですが少年期を横島で過ごしました。「三山」という筆名は、横島から見える三つの山峰にちなんで後年付けたものといえます。それだけ、少年期を過ごした横島での風景が印象深かったのでしょう。



今年7月、漱石直筆の短冊が市に寄贈された

7月15日、「ロンドン漱石記念館」の館長で、崇城大学教授の恒松郁生さんから漱石直筆の短冊や、小説「草枕」の外国語訳本などが市に寄贈されました。恒松さんは熊本地震で被災し、友人のすすめもあつて熊本市から転入し7月から玉名市民となりました。

この短冊は、蘭、竹、梅、菊を描いた「四君子」短冊の一つで、竹が描かれています。箱書きによれば、漱石と親交のあつた明治から大正にかけて中央公論の編集長だった滝田樗陰のために漱石が書いた物で、残りの3枚は中央公論社主麻田駒之助家に伝わり、もう1枚は湯川秀樹博士に贈られたとされています。



将来的には、歴史博物館こころピアなどで展示し、市民をはじめ多くの人に公開する予定です。

また、恒松さんは観光案内施設「草枕交流館」の館長に8月から就任しています。漱石記念年の今年・来年に漱石や草枕の情報が詰まった「草枕交流館」にぜひお立ち寄りください。

作品募集 草枕美術展 FINAL

新「草枕絵」の創造—最終章—

夏目漱石の代表作「草枕」には、漱石自身が体験した天水の風景や人間模様が描かれています。

大正時代には、「草枕」の「絵」に挑み、「草枕絵巻」を描いた画家たちがいました。本展では、皆さんの現代の感性で描く新「草枕絵」を募集します。

平成7年以来2年ごとに開催してきましたが、漱石記念年の今回をもって終結となります。

主題 小説「草枕」の情景

表彰

・最優秀賞：1点
（賞金10万円＋副賞）

規格 50号までの絵画

応募方法 12月1日（木）から12月9日（金）まで

・優秀賞：2点
（賞金3万円＋副賞）

・奨励賞：10点
（賞状＋副賞）

・参加証：全員
（記念品）

※応募規定該当作、複数応募は1点

※作品規格や申し込み方法など、詳細については「漱石・草枕の里」ウェブサイトか、草枕交流館でご確認ください。

審査発表 12月下旬

展示 平成29年1月5日（木）から3月26日（日）
（会場は草枕交流館など）

草枕交流館でのご確認ください。